

年頭に思う

大地震、巨大津波、原発事故、続く放射能禍。私たちの社会が到達した科学や技術が、案外もろく、未熟な部分の多いことを気付かされました。医療分野においても、IPS 治療や診断技術など素晴らしい進歩があります。しかし予防に関してはいまだ不十分ではないでしょうか。健康な状態からなぜ病気になるのだろうか。その答えの一つが、食物アレルギーです。1920年代にアルバート・ロウが、胃腸症状のみならず、神経症状から呼吸、関節、皮膚症状など、幅広く食物アレルギーが原因の病気が、アレルゲンを除去する事で治ることを明らかにしました。わが国では群馬大小児科名誉教授の故松村龍雄先生が、ご自身の病気から、牛乳アレルギーの存在に気付き、子供の多くの病気の原因に食物アレルギーがあり、アレルゲンを除去したことで治療できることを初めて証明しました。湿疹、喘息、鼻炎、胃炎、潰瘍性大腸炎、栄養失調、ネフローゼ、蛋白尿、血尿、起立性調節障害、貧血、筋肉痛、関節炎、頭痛、学習障害、アレルギー性緊張弛緩症候群等、百種以上の病気が食物アレルギーで引き起こされることを、1969年、現代小児科学大系9(A)に執筆しています。その後正式に、それは誤りであると訂正された事はありません。にもかかわらず、よく、何でも食物アレルギーの所為にする、と非難されることが多いのです。

30年程前に全国で食物アレルギーに取り組んでいる者が松村先生を囲んで懇談した事がありました。10数名を前に、「君たちが、受け継いでくれるんだね」と感激され、私たちは、相当な圧力がどこからか加えられているに違いないと感じました。故梁瀬義亮先生は農薬の健康被害に逸早く「沈黙の春」(レイチェル・カーソン著)よりも以前に気付き、全国に訴えて回られたそうですが、無視され被害は広がりました。

私共のアレルギーの治療は、以前と比べ除去はより複雑になりました。環境も社会も変わってきていることもありますが、アレルゲン診断力も上がってきた為と思うのです。以前の三大、又は五大アレルゲン除去一代用食だけではなく、食品添加物、残留農薬、環境中の自然物と化学物質、など多岐にわたり、ある程度正確にそれらを特定できるようになったためです。原発事故以来、放射性セシウムやその他の核種(ストロンチウムなど)対策にも気をつけねばならなくなりました。しかし、きちんと対策を取ると、これもよくなることも判明しました。今後も、何が起きるかわかりませんが、自分の体に合わないという信号があれば、逸早くキャッチして取り除く事、これが、自分の体の免疫を強めるのです。除くという一見消極的にみえる治療ですが、放射性セシウムの例でも徹底して除染した方が、被害を最小にしてすぐ回復したのです。真実に気付き警告を発し、行くべき道を示して下さった先達に感謝し私共もどんな事も柔軟に受け止め、体の声を聞きながら、素早く対応し、免疫力を高め、病気を防いでいきましょう。